

序

平成 21 年度の病院年報を作成するにあたり、この 1 年を振り返ってみますと、昨年度は「地域医療再生臨時特例交付金」を利用した「地域医療再生計画（泉州医療圏）」の策定から決定までに翻弄された年でした。その中で私は平成 21 年 8 月に病院長を拝命致しましたが、種々の難題が山積し前途多難なスタートでありました。特に政権交代による政府の方針変更で、計画そのものを大幅に変更せざるを得なくなり、その間、南泉州の 4 つの公立病院間の協議等に随分時間と労力を費やしました。今後は公立病院間の連携のみならず全ての医療機関との協力関係を更に強化させ、南泉州の地域医療の充実を目指して努力しなければならないと考えています。

院内では、平成 20 年末に策定されました病院改革プランに沿って、運営を進めているところですが、その手段として平成 21 年度より「Balanced Score Card(BSC)」を導入致しました。病院の BSC のビジョンには「つながりが共感できる病院になる」を掲げ、各部署ごとの BSC の発表会を行い、他の診療科や部署の事をお互いにもっと理解し合おうと努めています。落ち込んでいた病院収益も、職員の努力に加え、DPC 導入や 7:1 看護実施などの効果もあり、21 年度は赤字幅が縮小致しました。未だ一部の診療科の医師不足や看護師不足はありますが、このまま上昇傾向が継続できるようにしたいと思っています。しかしながら、まだまだ病院運営は厳しく、種々の医療制度が大きく変化する中で迅速に対応できるように体制を整え、病院の活性化を図りたいと思っています。

当院の職員は日常診療を精一杯行うだけでなく、それぞれの立場で自己研鑽に努め、レベルアップするように日々努力しております。専門性の向上、資格の取得を目指し、学術活動や教育にも力を注いでおり、それは診療科のみならず、看護局や診療技術部などにも言えることです。この年報をご覧いただくと、厳しい状況の中での診療状況や学術活動の一端がお分かりになると存じます。皆様にご一読いただければ幸いです。

最後に、皆様方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

市立泉佐野病院 病院長

伊豆蔵 正明